

全体的質疑

熱田委員（福知山地本）

●安全について、事故教育は会社が行うべきであるが、組合として、青女としても後輩に語り継ぐ。

●社会人採用について、青女は年々減少する一方、社会人採用が増えている。採用全体の48%を占めており比率が高い。新卒よりも年齢が高く、青女活動ができないまま30歳を迎えてしまう。このままだと、青女の人材育成が難しくなる。

●住宅補給金について、物価高による資材高騰。新居を建てる組合員は不安。

●エリア手当の増加に感謝しているが、近統エリアで見ると差があり道半ば。改善いただきたい。

神田委員（大阪地本）

●制服について、熱中症と汗じみ。工務系統のウインドブレーカーも撥水性に乏しく機能発揮できてない。現場の声を反映させたものに、貸与品について、乗務員用カバンは重くて体

制が不安定になる。狭い昇降台は両手が空いた方が安全。JR他社ではリュックサック型。

●販売機器の機能改修や新導入について、MVでお客様が購入されるが、操作し難いとの声。遠隔MVでも、オペレーターが画面操作している。お客様に分かりやすいトップ画面に、現金チャージに対応した券売機と精算機を各駅に設置を。

日野委員（総支部）

●鉄道病院の老朽化について、築25年は老朽化している。黒いカビや空調の機器が悪い。施設内の改修は時間がかかるが、患者の精神的苦痛を軽減するために。

●がんのリハビリテーションの研修手当について、病院運営上必要な資格。通常の業務と並行してeラーニングでの事前動画研修と当日の集合研修は負担。

園田委員（京都地本）

●改札設備について、異常を検知した場合は「切符をお確かめください」の日本語の案内しかない。改札機に搭載する機能に英語での案内を。

●福利厚生について。まずは制服について、車両は上限3枚ずつであるが、不衛生で我慢している。枚数の増加を。駅乗務員では、ポロシャツのニーズが高まっている。駅車掌へのサン

グラスの貸与を。列車状態監視、ホーム上の安全監視宙に

紫外線にさらされる。住宅補給金23,000円の見直しについて、値上げに伴い生活費は一杯。

●工務系統のLM層への魅力低下について、LMの魅力がなく技官を目指さない。魅力あるものに。

岡田委員（西バス地本）

●大阪、関西万博について、無事故完遂を果たした。JR西日本グループとして達成できた。グループ会社にも本体から一時金があれば今後も発展するのでは。

●バスフォーラムについて。他のJRバス会社と交流を深めることのできる貴重な機会であり参加希望者が多くいるため今後も継続いただきたい。

●バス産業について、長時間労働にも関わらず賃金が低い。バス産業は年齢が上がり待ったなし。国や自治体に課題解決に向けて働きかけを。

森本委員（米子地本）

●研修センターから帰省する際の代用証について。寮閉鎖日以外は実費負担。報告書を自職場に持って行くと月2回は代用書が発行されるが作成は自分の時間で負担。研修センター入所中は各種手当も少なく、負担感が増している。

●車両系統の職務手当について。信号操車業務、運転補助業務3,000円だが、操車業務と運転補助業務は責任の重さが違うのに金額が同じ。操車業務の手当増額を。



神田委員



園田委員



岡田委員



日野委員



熱田委員



森本委員



三宅委員



中谷委員



高田委員



本城委員

が難しい。IT人材がいなければならぬ。

●資格取得一時金の考え方に

ついて、ITへの職務手当は大変感謝。シスマネ部は3年目で高度資格取得がKPIに

掲げられているが相応しい試験なのに手当は2万円。難易度が釣り合っていない。難易度に応じて報奨金が上がるよ

●エリア手当について。消費者物価指数で島根県は10位、大阪は16位。米子は車社会で自家用車。エリア手当については過去に整理されているが、2026春闘にて再度増額を要望する。

高田委員（金沢地本）

●社員の運用について。金沢は北陸新幹線と在来線、3セク。並行在来線の移管や自動運転の準備を進めている。並行在来線に出向している社員もおり、復帰職場があるのか不安がある。今後の社員運用について提示を。

●列車見張員、保守用車運転者への手当について。命を守る技術が必要な業務であるため新設いただきたい。

三宅委員（総支部）

●夏季休暇、冬季休暇の新設について。モチベーション向上、ライフステージが上がった際にはワークライフバランスの向上に

繋がるのでは。昨年12月30日は年休倦怠があったが、当初より休みにすべきなのではないか。DX分会は事業会社やIT企業が相手で、労働力確保

うに。また、他の資格についても受けなければならないため広く一時金の対象拡充を。

●当直業務について、薬剤師、臨床検査技師では当直後にそのまま勤務に入る。看護師の場合は、午前中で勤務明け。

●資格取得一時金の考え方に

ついて、ITへの職務手当は大変感謝。シスマネ部は3年目で高度資格取得がKPIに

掲げられているが相応しい試験なのに手当は2万円。難易度が釣り合っていない。難易度に応じて報奨金が上がるよ

●エリア手当について。消費者物価指数で島根県は10位、大阪は16位。米子は車社会で自家用車。エリア手当については過去に整理されているが、2026春闘にて再度増額を要望する。

中谷委員（総支部/病院薬剤師）

●当直業務について、薬剤師、臨床検査技師では当直後にそのまま勤務に入る。看護師の場合は、午前中で勤務明け。

●資格取得一時金の考え方に

本城委員（和歌山地本）

●住宅補給金について

●通勤手当について、バス通勤を申請したが通らなかった。理由は15分の短縮が認められないため。電車待ち時間の方が長くなりバスが早い。通勤方法についても拡大を。

32時間病院に拘束され、睡眠不足となり業務に支障をきたす。

疲労や判断力の低下は医療事故となる。土日祝以外でも当直があるが、振替がない。プライベートな時間も確保できない。当直明けは休みを。

●資格取得一時金の考え方に

ついて、ITへの職務手当は大変感謝。シスマネ部は3年目で高度資格取得がKPIに

掲げられているが相応しい試験なのに手当は2万円。難易度が釣り合っていない。難易度に応じて報奨金が上がるよ

●エリア手当について。消費者物価指数で島根県は10位、大阪は16位。米子は車社会で自家用車。エリア手当については過去に整理されているが、2026春闘にて再度増額を要望する。

渡邊副委員長

●医療フォーラムについては参加者からの生の声やアンケート結果からも必要性を認識している。今後も広島地本本社総支部とともに連携して取り組んでいきたい。

●北労組の支援については今後もJR連合とともに取り組んでいく。イーストユニオン支援については過去にピラ配りを行った経緯もあるのでJR連合と連携していく。

●社会人採用（30歳以上）の組合活動への参加については執行部と連携して取り組んでいただきたい。

藤田副委員長

●夏季作業は大変過酷であり、快適性が増すポロシャツ、ファン付の服は有効と考えるが、現場作業に合った安全面を重視した制服がほしいと

渡邊副委員長

●医療フォーラムについては参加者からの生の声やアンケート結果からも必要性を認識している。今後も広島地本本社総支部とともに連携して取り組んでいきたい。

●北労組の支援については今後もJR連合とともに取り組んでいく。イーストユニオン支援については過去にピラ配りを行った経緯もあるのでJR連合と連携していく。

●社会人採用（30歳以上）の組合活動への参加については執行部と連携して取り組んでいただきたい。

中村業務部長

●要員不足について、現時点で会社から要員の推移について明確な回答は無い。退職者分の補填については新卒社員社会人採用で確保していくとのこと。駅の業務課題、定年延長については引き続き議論していく。

●職場環境改善について、ES財源を今中期経営計画で20億円ほど確保している。施工予定数は現時点で昨年の倍以上の計画となっている。来年度以降については諸課題交渉で議論する。

●車両のジャック整備については車両改善要求で議論しているところである。近統などエリアによってジャック推奨非推奨の取り扱いが違いためエリアで議論いただきたい。

●超勤の付け方は実労働時間ベースと認識。ただ、諸会合の取り扱いについては引き続き議論が必要と考える。

●カスハラについては諸課題交渉で議論していく。名札につ

常任委員会 答弁

でも非着用の方向で議論していく。

●被服関係については諸課題交渉で議論していく。

●安全について、事故から20年経過するが、節目ではなく継続した風化をさせない取り組みを継続する。

●イノベーション創出プログラムについて、社員の運用状況を確認する必要があるが、働き方の課題とモチベーションが繋がらない点については議論していきたい。

●車両改善について、車両改善で引き続き議論していくが、具体的な内容を挙げていただく議論しやすい。

●駅のゴミ箱設置に対する課題は、地方で議論いただきたい。LGBTQへの理解・浸透については引き続き確認していきたい。

宮崎副委員長

●支部の活動は難しい中、前向きに取り組んでいただき感謝する。ただ、活動を増やすと同時に負担が増さないよう、レクを支部毎、地本毎にするのではなく、まずは地本支部の合同を開催してみようか。上手くいっている地本もあると思うので他の地本の活動を聞く機会を大事にしたい。青女のあり方についても併せて議論していくこととする。

●職場によつて要員・年休取得率は違うので乗務員に偏った話ではないが、見習い中でも無理なく参加できるように配慮していただきたい。

●貴重な20代の時間を青女活動に使うことは大事であるが、活動に参加できない組合員を責めるのは求心力の低下に繋がる。無理なく活動できる方法を模索していただきたい。



宮崎副委員長



中村部長



渡邊副委員長



常任委員、委員、来賓、準備地本、傍聴含めて約140名が集結した